



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.30 No.4(No.116) Oct. 1997

## 南洋庁発行『国語読本』の中の「白銀堂」

法文学部教授 仲程 昌徳

昭和十六（一九四一）年六月十七日、石川達三は、南洋神社に参拝した後、パラオ公学校を参観。公学校は「島民の子弟を教育する国民学校で（中略）南洋庁規定の教科書によって内地と同じような小学校教育が、全部日本語で教えられ」ていた。石川を迎えた公学校の校長は、

その時間を「唱歌の時間」にしたといい、高等科の女生徒たちを唱歌室に集める。校長自身がオルガンを弾き、少女たちが歌い始める。

石川は、「それが立派な日本語であったことに、私は裏切られたような気持ちがあった」という。そして「少女たちは愛国行進曲をうたい、

### 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 南洋庁発行『国語読本』の中の「白銀堂」          | 1  |
| CD-ROM情報検索システムの使用法(4)        | 4  |
| 本学紀要類紹介：－シリーズ 8－             | 6  |
| レポート・論文作成のための電子メディア活用講座      | 7  |
| お知らせ                         | 8  |
| 当館所蔵「宮良殿内文庫」古文書類の電子化作業を開始    | 9  |
| アカデミー賞受賞作品映写会                | 9  |
| 駐日米国大使館から図書500冊寄贈            | 10 |
| 第25回沖縄県大学図書館協議会総会及び講演会開催について | 10 |

### 次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 図書館ボランティアを振り返って          | 11 |
| 専門図書館協議会平成9年度全国研究集会に参加して | 12 |
| 目録システム講習会を開催             | 15 |
| 利用者の声                    | 15 |
| 沖縄関係資料新着案内               | 16 |
| 本学教官著作寄贈図書案内             | 23 |
| 「文献検索ワークショップ」開催される       | 23 |
| 図書館事情                    | 23 |
| 医学部分館だより                 | 24 |

附属図書館のホームページ (<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

軍神広瀬中佐をうたい、児島高德の歌をうたった。日本の伝統を感じ得ないこのカナカの娘たちにとって、八紘一宇の精神や一死報国の観念が理解される筈はないのだ。美しい鶉の合唱であった。しかも少女たちは懸命に声を張りあげてうたっていた。歌をうたうことの生理的な喜びに満足していたのではなかろうか。私は少女たちのいじらしさに胸が詰まった。これがもしも彼女たちの日本人になろうとする努力の表現であるとすれば、その憐れさはひとしほである」と書いている。それだけではない。

軍歌のあと、校長はオルガンを離れて立ち上がり、「最後にひとつ校歌をうたおう」という。石川は、そのあとに起こったことを、次のように書いている。

生徒たちは唱歌帳の頁をめくった。校長は白墨を握りながら拍子をとった。私は生徒の唱歌帳をのぞいて見た。五線紙におたまじゃくしを書いてその下に片仮名の歌詞をつらねてあった。コーラスははじまった。

みいつかしこきすめらぎの、深き恵みの露うけて、椰子の葉そよくこの丘に、そりて立てるまなびやは、日毎に集う我等の庭ぞ、あな嬉しやな、嬉しやな。

私は悲しくなって来た。元気なコーラスはますます元気に、楽しげに第二節に移った。

天恵うすきこの島に、盲人のごと産れきて、西も東も知らざりし、我等が眼にも日はさしぬ。みなまなびやの賜ぞ、あな嬉しやな、楽しやな。

この歌を作った人が誰であるか、私は知らない。ただ、その作者の支配階級意識に驚嘆した。そしてこの歌を嬉々として歌う少女たちを涙なくして考えることはできなかった。天恵うすき島に盲人のごとく生まれて、西も東も知らなかった、この民族の悲劇は、スペインに占領されドイツに譲渡され、さらに日本の統治を受けていま、この事実だ。しかし私は疑う、この少女達にかくも悲惨な民族の悲劇を教え自覚させる必要があるだろうか。こういう侮蔑的な歌をうたわせて恩に着せる必要がどこにあるか。

昭和十五（一九四〇）年二月二十八日、丸山義二は、「サイバン公学校」を見学に行く。「学芸会」があるというので、いい機会にぶつかったと思い喜ぶが、それが実はそうではなかったことを、本科一年生だという男の子によってなされた「歓迎の辞」で気付く。「開会の辞」ではなかったのである。そして丸山は、次のように書いている。

アクセントは少々訛るがハッキリした日本の標準語で、

「東京のお客さま、お客さま方には・・・」と、その男の子が気をつけの姿勢でいい出した時、私は顔をあげていることができなかった。耳をふさぎたいような気がし、私は顔を伏せた。何が「お客さま」だと思った。私たちの方こそ「お邪魔」にあがったのであり、まことに相済みぬという態度で、かれらがいかにかに教科をきき、いかにかに教科を理解するかを傍から静かに見学するのがほんとうなのだ。かれらの好意は廊下での私たちへの挨拶で十分すぎるくらいである。先生は自分の可愛い生徒たちに何という卑屈な言葉をいわせるのであろう！「東京のみなさん」ならまだしも、「東京のお客さん」とは、言語道断だと思った。せめて教育だけなりと、一日も早く、この種の態度を改めてほしいものである。

丸山は、東京に帰ってからそのことを知人に話すと、「センチメンタル」だと一蹴されるが、「妥協できない」といい、「日本人になりたい」というチャモロの切実な訴えや「新附の民たるがゆえの情けなさ」に思い及ぶ。さらには南洋群島文化協会野口正章が「チャモロは何を求むるか」で指摘している「一般在住内地人のかれらに対するいわれもない差別待遇ないしは蔑視的な態度」について触れた一文を引用したあとで、「ゆうべの島民の家の『良家の子女』といい、今またこの公学校の学芸会といい、私の胸は鉛をのまされたように重かった。かれらにこの屈辱をあたえているものは何か。その何かのうちに私自身がまじっているのだと思うと、私は、自分で自分がいやらしかった」と書いている。



石川や丸山は、多分少数派であったが、軍歌や、校歌として「侮蔑的な歌をうたわせ」恬として恥じない教育、さらには「卑屈な言葉をいわせる」教育、そのような教育がなされていることに対し、いち早くそれを「島民社会の特殊性に対する考慮の不足」だと喝破したのに矢内原忠雄がいた。彼は次のように書いている。

公学校の教科目は修身、国語、算術、地理、理科、図画、唱歌、体操、手工、農業、及び家事（女）であり、その大要は、小学校に準ずるものであるが、右の中最も力を注いで居るのは国語であって、本科各学年に於いて毎週授業時間の約二分の一（十二時間宛）、補習科に於いては約三分の一（十一時間乃至十時間）を国語に当てるのみならず、凡ての学科の教授用語にもすべて日本語を用い、助教員たる島民が授業を担当する場合にも島民語を用いしめない。国語中心の教育の効果として数えられる点は、（１）各主要島群毎に言語を異にする島民に対して共通語を与えること、（２）官庁及び日本人の事業若くは家庭に雇用せられ、又は商人との取引上実益を得ること、（３）日本語を通じて近代文化を吸収する機会を得ること等にあるが、かくの如き国語普及政策はひとり南洋群島のみならず、我国の諸植民地に共通せる教育方針であって、根本に於いては同化主義政策の表現と解しなければならぬ。又小学校（日本人児童）と公学校（島民児童）との間に教員の転任を自由に行うことは、一応は日本人教育と島民教育とを一視同仁するの趣旨を現すものではあるが、往々島民の風習や思想について理解浅き教育を施すの弊害を招くことなすとせず、前述の徹底せる国語教育方針と相俟って、島民社会の特殊性に対する考慮の不足を感ぜしめる。

矢内原は、そのように「公学校の教科目」で、もっとも重要視されているのが「国語」であるとして、南洋庁が何故にその「国語」に力を注ぐのか、その意図を明快に解説している。矢内原が南洋群島調査を行ったのは昭和八（一九三三）年。当時用いられていた南洋庁発行になる

「国語読本」を矢内原は持ち帰っている。

矢内原の持ち帰った「国語読本」が、本学附属図書館内に開設されている「矢内原文庫」に収められていることは、あまり知られていないのではないかと思うが、本稿で触れたかったのは、実は、その「国語読本」と関わることであった。

矢内原が持ち帰った「南洋群島国語読本」は、本科用巻一から巻六及び補習科用巻一、巻二の計八冊であるが、補習科用巻二の最後「四十七」に、「手が出る時にわ意地を去れ。意地が出る時にわ手を去れ」（いじぬいじらーてーひき、てーぬいじらーいじひき）ということわざを基にした伝承「白銀堂」の話が収録されていた。補習科用巻二は公学校用最終の国語読本だと思うが、その最後の最後に沖縄の伝承を収録したのは、何故なのだろうか。

すでに紙幅が尽きようとしていて、この興味ある課題についての検討はおあずけということになるが、そのことを考えていく上で、忘れていけないのが「在住邦人の本籍別人口を見るに、昭和八年四月一日現在邦人人口三〇、六七〇人中、沖縄県人は一七、五九八人であって、五割七分を占める」（矢内原『南洋群島の研究』）ということ、そして「島民にいわせるとその（人種引用者注）序列は、内地人、島民、沖縄県人ということになるらしい」（梅棹忠夫「第四部 紀行」『ボナベ島 生態学的研究』今西錦司編著所収）というように、沖縄が見られていたという問題である。

島の人口の半分以上を占めながら、「人種序列」として最下位に見られていた沖縄、そのことをまず押さえることから「白銀堂」物語収録の謎ときは始まっていくのではないかと思われるが、委任統治下にあった南洋の「教科書問題」を見ていく上においても、まず「矢内原文庫」に収められた数多くの南洋資料の閲覧に通う必要があるであろう。（ちょっと宣伝めくが）附属図書館には中々のものが収められているのである。

（なかほど まさのり：日本近代文学）



## CD-ROM情報検索システムの使用法(4)

### Citation Index

附属図書館では、Science Citation Index (以下 SCI とする)、Social Science Citation Index (以下 SSCI)、Arts & Humanities Science Citation Index (以下 A&HCI) という3種類のCitation Indexの検索システムを提供しています。これらは、それぞれ同じ画面展開で検索を進めていきますので、今回はまとめてCitation Indexの利用法として、ごく簡単に紹介します。詳細な操作法や利用法は、附属図書館内の利用者用パソコン側においてあるマニュアル、もしくは図書館内で定期的開催されている「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」で図書館職員によるワークショップがありますので、それらをご活用ください。

#### I. 内容

SCI：世界の代表的な自然科学分野の雑誌3,300誌以上をカバーした引用文献索引。附属図書館では、抄録収録版を提供しています。

SSCI：世界の代表的な社会科学分野の雑誌1,400誌以上をカバーし、さらに3,200誌を超える科学雑誌からの関連データも収録した引用文献索引。SCIと同様抄録収録版を提供しています。(ただし、もともと91年版以前のリリース分には抄録は付いていません)。

A&HCI：世界の代表的な人文科学分野の雑誌1,100誌以上をカバーし、さらに5,800誌を超える自然科学および社会科学雑誌からの関連データも収録した引用文献索引。これには、抄録つきのバージョンはありません。

(注) 引用文献索引：文献の引用、被引用の関係に基づく索引。従来の索引とは異なり、引用文献をたどりながら、必要とする文献を検索することができるのが特徴。

#### II. 操作方法

1. 起動 (ここでは、図書館内の利用者用端末における起動方法を紹介します)  
SCI, SSCI または A&HCI のうち、検索したいものを反転させ (矢印キーを上下左右に移動することにより起動したいものを反転させます)、改行キーを押します。
2. データベース選択  
使用できるデータベースが表示されるので、その中から必要なものを一つ選択して改行キーを押します。
3. 終了  
画面上部のメニュー部分で Quit を選択し、検索プログラムを終了させます。
4. 以下に続く検索・表示を行うためには、画面上部のメニューや、下部のオプションメニューを選択・操作して進めていきます。

#### III. 検索

検索は、メニューの Search を選択し、画面を Search セッションに切り替えて行います。

1. 検索フィールドの選択  
最初に、どの種類の情報 (フィールド) を元に検索を行うかを決定します。例えば、タイトルや抄録に出てくる言葉や、論文に付けられているキーワードを基に検索する場合は Basic Index を選択し、論文著者で検索する場合は、Author を選択します。
2. 検索語入力欄にキーワード、あるいは著者名等を記入し、改行キーを押します (検索式の作成)。

3. 検索結果 (Set) が作成されて、ヒット件数が表示されます。
4. 便利な機能
  - ・辞書機能  
フィールドを選択後、画面下部のオプションメニューを参考に辞書機能进行操作することができます。綴りの曖昧な時や、キーワードの選択に困っている時などに利用すると便利です。
  - ・トランケーション記号 (\*) を使用することにより、前方一致検索が可能になります。
5. 論理演算  
複数のキーワードやそれぞれの検索結果同士の掛け合わせ等では論理演算子 (AND, OR, NOT等) を使用します。

#### IV. 検索結果表示

検索結果表示は、メニューの Results を選択し、Full Records か Titles Only かを選んで画面を切り替えます。Full Records と Titles Only の切り替えは、画面下部オプションメニューの View を利用して切り替えます。

##### 1. 表示画面 (Full Records の場合)

画面左上部には、Set 番号と検索フィールド、検索式が表示されます。画面中央には、検索された情報 (論文等) の詳細 (論題・著者・出典情報) が表示される。その下に、その情報の Related Records 件数とその情報が引用した論文 (Cited References) の数が表示される。

##### 2. Related Records の表示方法

Related Records とは、検索された情報と一つ以上の引用文献を共有している情報のこと。オプションメニューの Related Records を利用して表示します。この機能により、検索時にヒットしなかった情報でも、共有引用文献を持つということから、関連があると推察される情報にたどりつけます。この時、検索でヒットした情報 (親となる情報) から、5段階まで関連している情報をたどることが可能です。

##### 3. Cited References の表示方法

オプションメニューの Cited Refs を利用して、画面に表示されている情報が引用した論文の一覧が表示されます。表示方法は、その情報の第1著者、出典情報がそれぞれハイフンで結ばれて表示される。

##### 4. 親である情報とその Related Records が共有している情報は、Related Records が表示されている時、オプションメニューの Shared References を利用して一覧が表示できます。表示形式は、Cited References と同形式です。

##### 5. 抄録の表示 (A&HCI, SSCT'91 を除く)

オプションメニューの Abstract/Keywords を利用して、抄録等を表示できる。抄録は著者が作成したものである。

#### V. 出力

検索結果は、印刷、フロッピーにダウンロード両方が可能です。オプションメニューで、印刷なら Print、ダウンロードなら Save を選択し、画面の指示どおりに操作を行う。後のデータ利用の可能性の面から、ダウンロードをお勧めします。図書館内でダウンロードをする時には、フロッピーは予め DOS か Windows 形式で初期化したものを持ってくるようにしてください。

#### VI. その他

##### 1. データベースを変更して同じ検索を繰り返したい時

検索履歴そのものをフロッピーにダウンロードして繰り返し使用することができる。画面が



Searchセッションの時、オプションメニューのAlt-Save Strategyを利用して検索履歴のダウンロードを行う。データベースを変更した後、画面をSearchセッションにしAlt-Run Strategyを利用すると自動的にセーブしてあった検索を行う。

2. 著者の住所(所属)を知りたい

Results (Full Records) の画面で、オプションメニューの Address を利用すると、著者の住所を調べることができる。

3. 適当な検索結果にマークを付けたい

Results (Full Records) の画面で、オプションメニューの Collect を利用して、情報ひとつひとつにマークを付け、コレクションレコードとする。 (電子情報係)

## 本学紀要類紹介： 教育学部



【教育実践研究指導センター紀要】

創刊 1993年10月 年刊  
 仕様 A4判  
 発行者 琉球大学教育学部  
 附属教育実践研究指導センター  
 発行部数 400  
 I S S N 1342-5951

本誌が、教育現場の様々な課題に対して、何らかの示唆を与えるような教育実践研究に貢献していくことが今後の課題であると考えている。そのためにも、県内において優れた教育実践をしている教師の実践研究の発表の場を提供するなど、紀要全体の充実を図っていきたいと考えている。 (紀要委員 米盛徳市)

本誌は、琉球大学教育学部附属教育実践研究指導センターの研究機関誌であり、原則として毎年1回刊行されている。1993年10月に第1号が創刊され、1996年11月に第4号が発行されるに至っている。

執筆対象者は、本学教育学部所属の教官、附属小中学校の教官である。また、前述の資格を有する教官との連名で他大学所属の研究者、小中学校の教員および本学の大学院生の投稿も可能であり、広く門戸を解放している。

本誌は、現在400部発行し、国内の教員養成系学部の教育実践関連センター機関および県内の教育機関に送付されている。出版費用は教育実践研究指導センター運営費をもって充てている。

本誌に掲載される論文の特徴は、教育実践研究に基づく論文の内容になっているため多様な視点からの研究でありその内容は多岐に渡っている。



# 「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」

(平成9年9月1日 updated)

附属図書館では、学生のみなさんのレポート作成や、教職員の方々の研究・教育に役立つツールを提供しています。それらの利用方法について、図書館のスタッフが分かりやすくご紹介します。この講座は年間をとおして定期的に行っていますので、1回の受講で習得できなくても何回も繰り返し受講することが可能です。

## 開催スケジュール

| 場 所 | 本 館 ( 千 原 ) |     |        | 医学部分館     |
|-----|-------------|-----|--------|-----------|
|     | 火曜日         | 水曜日 | 木曜日    | 金曜日       |
| 第 1 | OPAC/総合目録/Z | ERL | ABI    | OPAC/総合目録 |
| 第 2 | OPAC/総合目録/Z |     |        | ERL/医中誌   |
| 第 3 | OPAC/総合目録/Z | CI  | GBP/CC | Z/CC      |
| 第 4 | OPAC/総合目録/Z |     |        | CI        |

(表の詳細は以下を参照してください)

### <開催スケジュール>

- ・平成9年9月より毎月第1～4当該曜日に、上記表の内容で開催予定です。変更がある場合もありますので、附属図書館ホームページ、図書館内掲示板にてご確認ください。
- ・開催日が休館日にあたる場合は、開催されません。
- ・第5当該曜日の開催はありません。

### <内容>

- ・OPAC：琉球大学附属図書館オンライン所蔵目録
- ・総合目録：インターネット上で公開されている学術情報センター総合目録 (Web-cat)。資料の所蔵調査範囲を全国の大学図書館や研究機関にまで広げることができる。
- ・Z (雑誌記事索引)：主に日本語の論文記事索引。全分野を扱う。
- ・ERL (MEDLINE/Biological Abstracts/Biological Abstracts RRM/PsycLIT)：医学、ライフサイエンス、心理学分野の雑誌記事索引。
- ・ABI (ABI/Inform)：経営関係及び Wall Street Journal 誌の6ヶ月分の記事索引。
- ・CI (Science Citation Index, Social Science Citation Index, Arts and Humanities Citation Index)：引用文献索引。
- ・GBP (Global Books in Print)：主に英米の図書書誌情報。
- ・CC (Current Contents on Diskette)：自然科学、工学、医学、社会科学分野の、主に雑誌を対象にした目次速報。

### <参加申込>

受講予定の前日までに、下記申込先へ申し込んでください。参加定員は、1回の開催につき10人程度 (先着順) です。申込をせずに当日開催場所へ直接来ていただいても結構ですが、パソコン台数等に限りがありますので、受講できないことがあります。

## &lt;開催時間・場所&gt;

時間：15：00～16：00

場所：それぞれ、下記の場所に集まってください。不明な場合はサービスカウンターにお尋ねください。

- ・本館：附属図書館本館2Fサービスカウンター向かい（目録検索コーナー）
- ・医学部分館：医学部分館1Fサービスカウンター前

## &lt;その他&gt;

1. この講座とは別に、学科、研究室、同じ専攻同士など、グループ単位での情報検索に関する自主的な勉強会や、授業等で情報検索について担当なさっている教官の方々のサポートもいたします。是非、ご相談ください。
2. この講座の日程に合わせられないため参加できない方、定員からあふれてしまった方などのために、日程を追加して講座を開催することも考慮したいと思っておりますので、ご相談ください。追加の講座の日程が決定したのち、ホームページ等でお知らせします。

## &lt;申込、問い合わせ先&gt;

附属図書館情報サービス課電子情報係（附属図書館3F 内線 千原8167、2207）

## お知らせ

## ◎ 秋季休業期間の開館時間

9月25日（木）から10月8日（水）まで秋季休業

|    |       |            |
|----|-------|------------|
| 本館 | 平日    | 8：30～17：00 |
|    | 土、日曜日 | 閉館         |

|       |       |             |
|-------|-------|-------------|
| 医学部分館 | 平日    | 8：30～21：00  |
|       | 土、日曜日 | 13：00～17：00 |

## ◎ 行事・祝日の開館について

琉大祭 11月8日（土）～9日（日）

：本館は休館・医学部分館は 13：00～17：00

日曜開館 11月23日（勤労感謝の日）は 13：00～17：00

祝日の閉館 11月24日（振替休日）及び他の祝日（10/10、11/3、12/23）は  
本館、医学部分館とも閉館

## ◎ 冬季休業期間の開館時間

12月25日（木）本館、医学部分館とも 8：30～17：00

なお、年末年始（12月26日～1月5日）は休館です。

※ 本館では当月、翌月の開館案内（カレンダー）を  
入口及び掲示板に掲示しています。ご注意ください。





当館所蔵「宮良殿内文庫」古文書類の電子化作業を開始  
 当館所蔵「宮良殿内文庫」古文書類の電子化作業を開始  
 当館所蔵「宮良殿内文庫」古文書類の電子化作業を開始

本学附属図書館から提出していた、平成9年度科学研究費補助金申請（「宮良殿内文庫」古文書類の電子化作業）が採択されたことは前号の「びぶりお」でもお知らせしたとおりです。

宮良殿内文庫には、旧藩時代及び琉球処分前後の八重山における行政・記録文書及び漢籍、文学・芸能・生活等に関する貴重な古文書類があります。しかし、それらは原資料であるため、資料の保存という意味から直接閲覧させることは容易ではありませんでした。

今回の作業は、この文庫にある総数2万ページという膨大な数に及ぶ古文書を画像化し、インターネットを介して本学内外からの閲覧を可能にするもので、当館における電子図書館構築に向けた事業のひとつとして位置づけられるものです。

この作業計画実現にあたり、去る6月には学内の研究者を中心とする第1回目の会合を開い

て作業方針と仕様を決定し、その後8月の第2回会合では掲載する古文書の解説文執筆の分担や作業全体のスケジュールが決められ、この作業が本格的に開始される運びとなりました。今年度中に解説文の作成と画像取り込み作業を行い、来年のはじめ頃には内容の一部をインターネットで提供できる予定です。

また、現在当館でサービスしている「沖縄関係資料目録データベース」を、インターネット上で検索可能とするシステムの構築もこの科研費用で行うことになっており、その作業も並行して進めております。このデータベースには、当館が所蔵する沖縄関係資料約4万点の書誌、所蔵情報はもちろん資料の内容情報も収録されており、図書の日次や雑誌の記事なども検索できるようになっています。この検索システムも次年度のはじめ頃には提供できる予定です。

（電子情報係）



|                               |         |         |
|-------------------------------|---------|---------|
| 10月1日(水) サウンド・オブ・ミュージック(176分) | 13:30～  |         |
| 10月8日(水) ウェスト・サイド物語(152分)     | 13:30～  |         |
| 10月15日(水) ガス燈(114分)           | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 10月22日(水) アパートの鍵貸します(121分)    | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 10月29日(水) 断崖(99分)             | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 11月5日(水) エデンの東(115分)          | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 11月12日(水) 慕情(102分)            | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 11月19日(水) スティング(129分)         | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 11月26日(水) シェーン(118分)          | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 12月3日(水) フレンチ・コネクション(104分)    | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 12月10日(水) 追想(105分)            | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 12月17日(水) グランド・ホテル(113分)      | ①15:00～ | ②17:30～ |
| 12月24日(水) 或る夜の出来事(105分)       | ①15:00～ | ②17:30～ |

## 駐日米国大使館から琉球大学 附属図書館に図書 500 冊寄贈

7月3日(木)、駐日米国大使館の広報文化局から米国の政治、経済、歴史、文学、社会学等の学術研究図書500冊が、琉球大学附属図書館に寄贈された。これらの図書は、米国の大学で講義を受け持つ各分野の専門家によって厳選されたもので、米国研究の主要分野の業績を代表するものである。

米国大使館から図書が寄贈されたのは、かねてから琉球大学アメリカ研究会と広報文化局との間で学術交流が行われており、その一環としておこなわれたものである。

琉球大学附属図書館で行われた贈呈式には、カール K. チャン駐日米国大使館広報文化局次長、オニール在沖米総領事らが出席し、金城昭夫附属図書館長に目録が手渡された。

(情報管理課)



(写真：オニール在沖総領事から金城昭夫附属図書館長に目録の贈呈)

## 第25回沖縄県大学図書館協議会 総会及び講演会開催について

7月14日(月)に第25回沖縄県大学図書館協議会総会が沖縄キリスト教短期大学図書館の当番で開催され、平成9年度の事業計画等が決定した。当日は各加盟大学の図書館長を始め図書館職員が出席した。

沖縄県大学図書館協議会は、沖縄県の大学図書館の共通問題を研究協議し、その健全な発展を期することを目的に本土復帰前の1970年に琉球大学、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄キリスト教短期大学、国際大学(後の沖縄国際大学)の図書館が参加し設立された。第1回の総会はその年の11月7日に琉球大学を会場に開催され、その後、沖縄県立芸術大学、名桜大学が加盟し、現在では沖縄県の全ての大学図書館が加盟している。設立当初は全沖縄大学図書館協議会と呼称していたが、1974年に現名称に変更されたものである。幹事館は琉球大学附属図書

館が受け持っており、総会開催の当番館は各大学持ち回りとなっている。

なお総会終了後には県立芸術大学附属図書・芸術資料館長の井上秀雄先生による講演「沖縄の文化と信仰」があった。

また、近年のインターネット普及にともない図書館においても電子的広報事業が盛んとなり、去る4月に開催された九州地区大学図書館協議会では、ホームページの開設が承認された。このことから、沖縄県大学図書館協議会としてもホームページを開設し、お互いの連携を深め、また他地域への情報発信を積極的に推進することとなった。当分の間は幹事館である琉球大学のサーバー上に開設し、内容については協議会の企画委員会で検討することになっている。

(情報サービス課)



## 図書館ボランティアを振り返って

照屋 美緒

昨年の11月より琉球大学附属図書館におけるボランティア活動が開始されました。それに伴い、ボランティアを始める私達のために、数回にわたるオリエンテーションが実施されました。パソコンでの検索、貸出・返却の仕方など実地的な指導とお話がなされ、学ぶ事の非常に多いものでした。それからほぼ十か月が経ちましたが、今でも毎回数多く新しい事を学んでいます。

ボランティアを始めるまでは、図書館の仕事といえば、本の貸し出し、返却、本の整頓といった狭い枠で捉えていました。しかし実際にボランティアを経験して、私が図書館について知っていたことがらは、ほんの一部分に過ぎなかった事に気がされました。図書館にはこんな仕事がある、そして機能があつたのだなと驚かされることもしばしばです。また、ボランティアを始めてからは、学生として図書館をより有益に使えるようになりました。そして、他の方々に図書館について色々積極的に話すようになりました。

これまでボランティアとして、多くの仕事を体験させていただきました。週に一回という限られた時間の中でなかなか仕事を覚えられないのにもかかわらず、図書館の職員の方々は根気強く丁寧に教えてくださいます。ボランティアに、このような仕事までさせていただけなのかと感謝の気持ちでいっぱいです。経験した中で特に興味深かったのはパソコンの利用案内と英文の案内書作成です。ボランティアを始めるまで、パソコンにふれる

機会は全くありませんでした。図書館にたくさんのパソコンがあるものの、それらを利用した事もなく本当の初心者でした。しかし、今は実際に使う機会を持つ事ができるので、少しずつではありますが上達しています。学生が本を探していて、それを一緒に調べ、最終的にピッタリ検索されると、自分が探している本が見つかったように嬉しい。

また図書館には、カレントコンテンツやメドラインといった雑誌記事索引があります。しかし、それらの案内が日本語でしかなかったために、外国人の先生方や留学生がより簡単に理解できるようにと英訳に挑戦しました。専門用語も数多くあり、難しかったのですが、皆様の助けを得ながら終える事ができました。

最近、沖縄県立図書館のほうでも、ボランティアが導入されることになりました。そのため去る8月13日、ボランティア仲間の澤岨直子さんと共に、これまでの琉大図書館でのボランティアとしての体験談を、お話しする機会いただきました。これから、さらに多くの図書館でボランティアの導入が検討されていくと思います。

ボランティアをすることによって経験できたたくさんの事が思い出されます。これまでのボランティア活動はとても充実したものでした。これからも引き続き御指導のもとで継続して活動していきたい。

(てるや みお：法文学部2年)





## 専門図書館協議会平成9年度 全国研究集会に参加して

### 1. はじめに

平成9年7月3日、4日の2日間、メルパルクOKINAWAにて専門図書館協議会全国研究集会が開催されました。開催プログラムは、まず最初に全体会として、坂本正治氏（ダイヤモンド社国際経営研究所客員研究員）を講師に「紙の山と電子の海—専門図書館と図書館人の未来戦略」と題する講演が行われ、ひきつづき以下のような6つの分科会が行われました。

第一分科会：イントラネット&電子図書館

第二分科会：ベンダーセッション&事例報告  
(エクストラネット)

第三分科会：レファレンス駆け込み寺

第四分科会：マネジメント

第五分科会：ベンダーセッション（データベース）

第六分科会：米国専門図書館協会（SLA）年次大会及び米国先進図書館研究視察団報告

今回私は、第一分科会と第四分科会に参加しました。以下に、その報告を行います。

### 2. 全体会

全体会は一時間半ほどの講演でした。講演者は図書館関係者ではないのですが、図書館に関心を持つ1利用者の意見として、示唆に富むトピックを提供してくれた講演内容でした。内容を要約するとこのようなものになると思います。

- ①電子図書館時代を迎え、図書館人はその主体性が問われている。電子図書館をめぐる動きとして、現在の状況としてはエンジニア系にイニシアチブがあるように見受けられるが、それで果たして実のあるものが構築できるのだろうか？
- ②電子化は省力化ではない。すべての物や情報を電子化することが目的ではなく、コミュニケーションを目的とすることが基本であり、またその手段として機器をどううまく使いこなせるかが問われる。
- ③ユーザーの肥大化、先鋭化した「知る」ということへの要求に図書館サイドはどう対処す

るか。「情報公開」という視点に立って、資料（情報）の「運用」と「保存」というダイナミックバランスを考える必要があるのではないか？

- ④自分たち（図書館人）が外の人にどう認識されているか知る必要がある。存在意義のアピールに積極的になる必要があり、その動きが情報公開にも結びついてくるのではなかろうか。
  - ⑤情報化という環境においては、既存の組織体制の改革が必要になってくるだろう。つまり、組織の枠を超えて、目標をプロジェクト体制で取り組む必要があるのではないか。そこで、図書館人はプロセスプランニングの能力を身につける必要性にせまられるだろう。
  - ⑥電子図書館というと資料の電子化があげられるが、電子化して何がしたいか、何をしたいから電子化するのかというポリシーが必要である。以上が講演要旨です。インターネット上の情報がそれこそ蜘蛛の巣（Web）のようにはりめぐらされ、情報技術がめまぐるしく変化・発展している時代に我々は直面していますが、立ち返って図書館が古い昔から「情報」を扱ってきた歴史を持っているということと、社会的に情報機関として図書館が人々の意識の中に存在していることを思い合わせると、この講演の演題にもあるように、我々は「紙の山」だけでなく、「電子の海」にも未来を見据えながら乗り出していかなければならないと感じました。その第一歩は、自分の身の回りに転がっている情報を公開・発信してみるということに他ならないと思います。
- ### 3. 第一分科会「イントラネット&電子図書館」
- #### 3.1 演題「S建設（株）情報資料センターにおけるイントラネットを利用した情報サービス」
- ①過去に行ってきた情報化、電子化の過程においてわかってきた問題点
    - ・電子化した一つ一つのシステムのソフトウェアが異なるため、それぞれちがったオペレーションを行う必要がある。

- ・それぞれのシステムの連携がとれていないため、ある一つの情報が得られてもそれをもとに次の検索に結び付けるためには手間がかかる。
  - ・システムのソフトウェアがバージョンアップされるたびに、クライアント側に配布しなければならない。
- ②イントラネットを採用した理由
- ・ブラウザといわれるソフトウェアを起動すれば、イントラネット上で利用者に公開されているすべてのメニューにアクセスすることができる。
  - ・基本的にサーバー上のデータや検索ソフトを変更するだけで、利用者側のパソコンに変更を加える必要がない。
  - ・インターネットとの接続が容易である。
  - ・写真等のイメージ・データの提供が比較的簡単にでき、既存システムからのデータ変換が楽である。ログを簡単にとることができるので、利用統計を取りやすい。
- ③ネットワーク構成としては、WWWとクライアント/サーバーシステムの連携をとる形態であり、具体的にはデータ入力には既存のクライアント・サーバーシステム環境を利用し、情報提供系はWWWを利用している。理由としては、入力に関しての信頼性が保たれるので、他の利用者にデータを壊される可能性が低くなるという理由による。
- ④なぜ、イントラネットか？
- そもそもの目的は、社内に保有する資料、情報のデジタル化をはかり、社内全体に情報センターから情報発信することで、社内での情報の共有化を促進しようということであった。デジタル化された情報を社内全体に発信することにおいて、その対策に一番適していると判断されたのが、イントラネットだった。
- ⑤まとめ
- ④で述べたように、イントラネット導入の背景としては、この機関の場合には情報発信の手段としてイントラネットが適切な手段として判断されたものであり、導入事体が目的ではない。導入に際しては、もちろんそれ以前までの情報の蓄積が大前提であり、また、それを使って何がしたいのかを明確にするポリ

シーも重要な要素である。それがなければ、中身が薄い内容になりかねない危険性ははらみ、今後の進展ものぞめないだろう。情報をデジタル化するという事は、単なる保存、デジタル化に終わることはないと考えられる。当然、情報発信、公開ということと表裏一体であろう。何を情報発信するのか、デジタル化する効果は？ひいては、われわれ図書館とはどのような存在なのか、どのように存在意義をアピールできるのかについて今一度問い直す好機ととらえることも可能になってくるのではないかと考えられる。考え方によっては、日常業務のなかに、情報化、電子化のネタがころがっているともいえるのではないだろうか提案した。

### 3. 2 演題「N電気研究所WWWベース電子図書館文書入力蓄積システム「情報ファクトリ」について」

#### ①WWWベース電子図書館

このシステムでは、複数の図書館のOPACデータを横断的に検索するシステムである。特徴としては、マルチプロトコル横断検索や、検索結果の統合表示、また検索キーワードに応じて、よりふさわしい検索先を推定する機能の開発に取り組んでいる。

#### ②文書入力蓄積システム「情報ファクトリ」

既存の大量の印刷体文書をいかにしてデジタル化するかについての取り組みである。このシステムでは、デジタル化作業がコンピュータになれていない入力作業員においても、容易に一定品質で行えることを目的として開発されている。

#### 3. 3 このセッションを終えて

企業の図書館・資料センターでの取り組みの柱のひとつとして、情報の共有化がかなり促進されているなという印象でした。共有化を進めることによって、様々な面での生産性を上げようというのがねらいと思われるが、これは大学図書館という場所に置き換えても同様の効果が得られると思います。N電気研究所で研究されているマルチプロトコル横断検索がもたらす効果も情報の共有化に対する一つの方策として大学図書館でも既に取り組んでいるようです。

#### 4. 第四分科会「マネジメント」

##### 4. 1 演題「21世紀への改革－図書館閉鎖、イントラネット、アウトソーシングによるバーチャルライブラリーの実例」

まず、最初に「米国ではなぜバーチャル・ライブラリーが可能なのか」と題して米国における図書館界とその周囲の社会的環境についての説明が以下のようにありました。

- ①米国では、オフィスではパソコンは1人1台は当たり前前の状況であり、「コンピュータを使うのはよいことだ」という前提が整っている。
- ②多様なベンダーの存在により、多様なDB、多様な情報サービスが普及し、そのサポート体制、価格決定において、日本と格段の違いがある。
- ③リストラの波を受けやすい関係上、変革に対する図書館スタッフのモチベーションの高さが顕著。
- ④今後の方向性として、DB利用の際はフラットレート（価格上限性、組織的な価格設定、大口契約）が主流になっていくのではないかと。また、「ナレッジ・マネジメント（Knowledge management）」という概念が出てきて、企業の価値はその持っている知識にあるということで、企業の評価がなされる傾向が顕著になってくるのではないかと。
- ⑤最後に、個人の知識・技術を養成することも必要だが、それ以上に今は、知識の共有できるシステム構築こそ努力されなければいけないのではないかと。

発表した企業内では、11あった図書館を閉鎖するという大改革が実際に行われた。その際、以下のことを行った。

- a. 利用者には、1次情報へのアクセスを保証する。
- b. スタッフ教育を行い、その結果により人員の再配置、社内、社外への転換を行った。
- c. エンドユーザーに対する説明会、グッズ作りと配布によるキャンペーンの実施。
- d. 組織の変更。

最後に、今後印刷物は電子的なメディアに変換する必要が生まれてくるだろうと予測し、これから予想される様々な変化に対して大事なことは、

スタッフが変化にかたくなにならないこと、図書館員が伝統的なもの（印刷物など）にこだわらず、またそれらに頼らず目的を果たすことができることであると強調して講演を終えました。

##### 4. 2 米国図書館事情にふれて

図書館自体だけではなく、図書館の周囲（DBプロデューサーからエンドユーザーまで）が日本とあまりにも違う環境にあるという情報を得たというだけでも収穫になりました。米国の状況が理想というわけではないのですが、これからの指標とはなるだろうと思います。

##### 5. おわりに

今後、図書館は、その存在意義のアピールの必要性を念頭においた、業務展開をしていくべきではないかと感じました。たとえば、情報や知識の共有化をキーワードに情報蓄積をはじめとする業務展開がなされていけば、それを活用した情報発信、情報サービスを行うことができ、それに伴う費用対効果の面からの図書館のイメージアップにも役立つのではないだろうかということです。ネットワークや情報基盤の充実に向けて社会全体が動いている中で、今や図書館は孤立できない状況にあります。日本国内でも、国立大学の民営化が取りざたされる昨今ですので、大学図書館は今まで以上にユーザーを意識した図書館マネジメントが求められ、翻って情報リテラシーの必要性についても考慮されなければいけないとも言えます。これだけコミュニケーション手段としてのコンピュータが身近な存在になり、ボーダレスな世界が実現されつつある環境の中で、人々が図書館、ひいては大学に対して情報公開という声を上げないはずはありませんし、今まで図書館が大事に保存してきたものの価値が急速に陳腐化するという事態も予想されます。そのような中で、今後図書館という文化はどうなっていくのか、図書館とは何なのかという問いかけに改めて向き合う必要があるということを感じます。この研修会は専門図書館協議会の研究集会ではありましたが、今後はさらなるネットワークのひろがりから考えて館種間の垣根もかなり低くなると予想されますので、大学図書館も含めて「図書館の未来」という視点で考えるべき時代を迎えていると思いました。（電子情報係：上原 恵美）



## 目録システム講習会を開催

文部省学術情報センターと琉球大学附属図書館との共催による「平成9年度目録システム講習会（雑誌コース、図書コース）」が8月20日から27日までの間、本学附属図書館で開催された。沖縄での開催は3回目、雑誌コースは今回が初めてである。

講習会には、講師として九州大学、鹿児島大学、本学のほか、学術情報センターの目録専門員の富田健市氏が出席した。富田専門員は機器を操作しながら、学術情報ネットワークへの入力方法や、学術情報センターの最新情報をまじえながら目録システムの概要、目録情報の基準を説明した。

この講習会には、琉球大学のほかに県内の公私立大学5大学から12名、図書コースの講習会

には、琉球大学のほか公私立4大学から10名が参加し、講師の説明に熱心に耳をかたむけていた。

(図書情報係)



## 利 用 者 の 声

前々から思っていたことなのですが、法律関係の書物が随分古く感じます。また、蔵書数も不十分なように思えてなりません。

法律の分野は、流れはゆるやかとはいえ、日々内容が変わっており、古い書物で対応するのは限界があるように感じます。また、シリーズ物を図書館で購入する際セットで購入するようにして下さい。シリーズ物の真ん中の数冊だけといった購入の仕方では全体を把握することができません。法文系の法律といえば琉大では専門に扱っている学生が多いと思うのですが、新刊等を見てもあまり法律系の本を見かけることがありません。

かたよがりがあるように感じます(美術系等)。今一度、御考慮下さいますよう、よろしくお願い致します。(私事なのですが、特に“憲法”関連の本をお願いします。)(平成9年9月4日)

〈回答〉

図書館では教官に学生用の図書の選書を依頼しており、関連する分野は満遍なく揃えられるように努力しています。

新刊書に関しても法律の専門出版社である有斐閣、あるいは岩波書店などの出版物は、ほぼ全点購入しています。またシリーズものは基本的に全点揃えるようにしています。

必要な本が図書館にない場合には、購入請求をすることもできますのでカウンターで係にお尋ねください。(1997.9.26 図書情報係)

— \*\* — \*\* —

私は一橋大(東京、国立)から来た学生ですが、学外者でも比較的自由に出入りできる(書庫等を含めて)環境は非常に良いと思います。

一橋大をはじめ、都市圏の大学はますます管理システムが強化され、「開かれた大学」のスローガンとは逆に、どんどん閉鎖的かつ「生活」しづらい状態に追いやられています。

今後とも、素晴らしい環境を維持・発展されることを望みます。(平成9年9月4日)

# 沖縄関係資料新着案内

1997年5月～1997年7月

## 0類 総 記

1. 那覇市立移動図書館青空号20年の軌跡：真理がわれらを自由にする／那覇市立図書館編  
那覇：那覇市立図書館，1997.3 K015.5-NA
2. 燦々と光はなつ島：羽衣伝説の謎／前盛勉  
著 東京：ルック，1997.2 K049-MA
3. 沖縄県立博物館50年史／沖縄県立博物館編  
那覇：沖縄県立博物館，1996.12 K069-OK
4. 島津家文書目録，黒漆塗箱分／島津家文書  
プロジェクト [編] [東京]：東京大学史料  
編纂所，1997.2 K090.3-SH
5. 喬姓家譜世系図／喬氏門中 [編] 那覇：  
三ツ星印刷所，[1985] K092.5-KY
6. 歴代寶案：校訂本，第13冊／沖縄県立図書  
館史料編集室編；和田久徳校訂 那覇：沖縄  
県教育委員会，1996.3 K093.2-RE
7. 琉球王国評定所文書，第13巻／琉球王国評  
定所文書編集委員会編 浦添：浦添市教育委  
員会，那覇：ひるぎ社（発売），1997.3  
K093.3-RY
8. 灸法・種子之論（他） 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）  
K094-YO
9. 童蒙須知卷壹冊 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）  
K094-YO
10. 服制 那覇：南西マイクロ，1996（吉浜家  
文書（久米島）；複写製本） K094-YO
11. 墓法選択分金法 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）  
K094-YO
12. 聖諭広訓 那覇：南西マイクロ，1996（吉  
浜家文書（久米島）；複写製本） K094-YO
13. 暦書・呪符・靈籤 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）  
K094-YO
14. 日選書 那覇：南西マイクロ，1996（吉浜  
家文書（久米島）；複写製本） K094-YO
15. 宅法二十四山分金法 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）

## K094-YO

16. 宅墓二十四山分金 那覇：南西マイクロ，  
1996（吉浜家文書（久米島）；複写製本）  
K094-YO
17. 御膳本草 那覇：南西マイクロ，1996（吉  
浜家文書（久米島）；複写製本） K094-YO

## 1類 哲 学

1. 大魚／牧野周吉著 船橋：牧野記念館，  
1997.3 K121.6-MA
2. びるます話：宮古島ふしぎ発見・神語りの  
世界，続／佐渡山安公著 平良：かたりべ出  
版，1996.11 K147-SA
3. 脳力開発の人間学／高嶺啓一著 東京：致  
知出版社，1996.10 K159-TA
4. 太古の琉球にユダヤの痕跡／喜屋武照真著  
那覇：月刊沖縄社，1997.3（炎のめざめ，2）  
K163.9-KY

## 2類 歴 史

1. 図説沖縄の城（ぐすく）：よみがえる中世  
の琉球／名嘉正八郎著 南風原町（沖縄県）：  
那覇出版社，1996.10 K200.2-NA
2. 中琉歴史関係学会論文集，第5届 福  
州：福建教育出版社，1996.7 K200.4-CH
3. 「沖縄」批判序説／高良倉吉著 那覇：ひ  
るぎ社，1997.7（おきなわ文庫，80）  
K200.4-TA
4. 定本琉球国由来記／外間守善，波照間永吉  
編著 東京：角川書店，1997 K200.8-HO
5. KOZA ひと・まち・こと：写真がとらえた  
1970年前後：あなたが歴史の目撃者／沖縄市  
平和文化振興課編 沖縄：沖縄市，南風原町  
（沖縄県）：那覇出版社（発売），1997.3  
K201-OK
6. 高等学校琉球・沖縄史；改訂版／新城俊昭  
那覇：編集工房東洋企画（発売），1997.3  
K201-SH
7. ベリーと大琉球：琉球放送創立40周年記念  
出版／高良倉吉，玉城朋彦編 那覇：琉球放



- 送, 那覇: ボーダーインク(発売), 1997.3  
K201-TA
8. 豚と沖縄独立/下嶋哲朗著 東京: 未来社, 1997.3  
K201.7-SH
9. 喜如嘉誌/喜如嘉誌編集委員会編 大宜見村(沖縄県): 喜如嘉誌刊行会, 1996.12  
K211-KI
10. 戦後初期の宜野湾: 桃原亀郎日記/宜野湾市教育委員会文化課編 宜野湾: 宜野湾市教育委員会, 1997.3 (宜野湾市史/宜野湾市史編集委員会編, 別冊)  
K228-GI
11. 結成30周年記念誌: メーラの心を心として歩んだ30年の記録新たなる出発に向けて/宮良郷友会編 那覇: 宮良郷友会, 1997.1  
K251-MI
12. 写真で見る和泊の歩み: 町制五十周年記念/和泊町教育委員会編 和泊町(鹿児島県): 和泊町, 1991.12  
K260-WA
13. 挿絵で見る「南島雑話」/名越佐源太[著]; 鹿児島県立大島高等学校南島雑話クラブ訳; 野尻純一編 住用村(鹿児島県): 奄美文化財団, 1997.5 (奄美文庫, 5)  
K260.8-AM
14. 旧記雑録拾遺伊地知季安著作史料集, 1/鹿児島県歴史資料センター黎明館編 [鹿児島]: 鹿児島県, 1997.1 (鹿児島県史料/鹿児島県維新史料編さん所編)  
K270-KA
15. 玉里島津家史料, 6/鹿児島県歴史資料センター黎明館編 [鹿児島]: 鹿児島県, 1997.1 (鹿児島県史料/鹿児島県維新史料編さん所編)  
K270-KA
16. いしころ: マタイによる福音書第3章9節/名城政健著 今帰仁村(沖縄県): 名城政健, 1995.8  
K289-NA
17. 山城榮徳伝/山城榮徳さん追悼集刊行実行委員会編 那覇: 山城榮徳さん追悼集刊行会, 1997.2  
K289-YA
18. The voyages and adventures of Fernand Mendez Pinto/translated into English by H. Cogan London: Dawsons of Pall Mall, 1969 (Colonial history series)  
K290-CO
19. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 与那城町・勝連町; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.4  
K290.38-ZE
20. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 平良市; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.5  
K290.38-ZE
21. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 城辺町・下地町・上野村・伊良部町; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.5  
K290.38-ZE
22. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 国頭村・大宜味村・東村; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.6  
K290.38-ZE
23. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 嘉手納町・読谷村・恩納村; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.7  
K290.38-ZE
24. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 石川市・金武町・宜野座村; 1997 北九州: ゼンリン, 1997.7  
K290.38-ZE
25. 南の島へ行かないか: 離島の中の離島口永良部島/根岸泉著 鹿児島: 南日本新聞開発センター, 1997.3  
K290.4-NE
26. 熱汗山脈(ねっかんさんみゃく): 八重山列島単独登頂の記録/高橋敬一著 宇都宮: 随想舎, 1997.5  
K290.9-TA
27. 日本の地名/谷川健一著 東京: 岩波書店, 1997.4 (岩波新書. 新赤版, 495)  
K291-TA
28. 「島」へ。: 日本を縁取る別天地/加藤庸二著 東京: 講談社, 1996.7 (講談社カルチャーボックス, 113)  
K291.09-KA
29. 沖縄の都市空間/堂前亮平著 東京: 古今書院, 1997.4  
K291.99-DO
30. Narrative of a voyage to the Pacific and Beering's Strait, v. 1, v. 2/Frederick W. Beechey Amsterdam: N. Israel, New York: Da Capo Press, 1968 (Bibliotheca Australiana, 34-35)  
K298-BE

## 3類 社会科学

1. 戦跡と基地: 沖縄市の戦跡ウォッチング/沖縄市企画部平和文化振興課編 沖縄(沖縄県): 沖縄市役所, 1996.8  
K302-OK
2. 琉球弧ものがたり: 自立と共生をめざして/太田武二[ほか]著 蕨: 実践社, 1997.4  
K302-OT
3. 沖縄独立宣言: ヤマトは帰るべき「祖国」ではなかった/大山朝常著 東京: 現代書林, 1997.4  
K302-OY
4. 沖縄は独立国家へ: 沖縄人の戦没者の声が聞こえる: 沖縄のことを考えるあるメッセン



- ジャーのひとり言／助安由吉著 東京：エイト社，1997.5 K302-SU
5. 国際都市形成構想の諸問題／起村肇著 [出版地不明]；起村肇，1996（沖縄時評，1） K304-OK
6. 県議会復帰20年の記録／沖縄県議会事務局編 那覇：沖縄県議会事務局，1993.3 K308.4-OK
7. 四年のあゆみ，平成4年6月25日～平成8年6月24日／沖縄県議会事務局調査課編 那覇：沖縄県議会事務局，1997.3 K318.4-OK
8. 米軍基地問題ドキュメント／沖縄タイムス社編 東京：朝日新聞社，1997.4（朝日文庫．沖縄から，[1]） K319-OK
9. 米軍基地問題の深層／沖縄タイムス社編 東京：朝日新聞社，1997.4（朝日文庫．沖縄から，[2]） K319-OK
10. 県民投票の記録：日米地位協定の見直し及び米軍基地の整理縮小に関する県民投票／沖縄県総務部知事公室編 那覇：沖縄県総務部知事公室，1997.2 K319-OK
11. ドキュメント日米安保，1-6 東京：大空社，1996.8-1996.12 K319.8-DO
12. ひびけ平和の鐘：平和祈念ガイドブック／石垣市総務部市史編集室編 石垣：石垣市役所，1996.3 K319.8-IS
13. 安保「再定義」と沖縄：アジアの視点から／剣持一巳編 東京：緑風出版，1997.3 K319.8-KE
14. 反戦地主の源流を訪ねて／本永良男編著 南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1997.2 K319.8-MO
15. のむぎ沖縄平和太鼓の旅／のむぎ「沖縄平和太鼓の旅」実行委員会編 東京：平和文化，1996.11 K319.8-NO
16. 戦争・平和関係図書一覧：平和月間〈平和文化資料展〉沖縄：沖縄市役所企画部平和文化振興課，1993.7 K319.8-OK
17. 行って見て考えた私たちの感想報告集／沖縄基地問題を考える会編 [宜野湾]：沖縄基地問題を考える会，1997.5 K319.8-OK
18. ひたすらに平和の創造に向けて／大田昌秀著 東京：近代文芸社，1997.4 K319.8-OT
19. 日米安保と沖縄問題：分析と資料／東海大  
学平和戦略国際研究所編 東京：社会評論社，1997.5 K319.8-TO
20. 日米安保解消への道／都留重人著 東京：岩波書店，1996.12（岩波新書．新赤版，476） K319.8-TS
21. ザ・けんぼう：愛と平和、そして自由のために／沖縄市企画部平和文化振興課編 沖縄（沖縄県）：沖縄市，1997.1 K323-OK
22. 中琉文化経済協会概況／中琉文化経済協会編印 台北：中琉文化経済協会，1993.9 K332-CH
23. 自立への新たな胎動：沖縄アイデンティティの要素／沖縄広報センター編 那覇：沖縄県知事公室，1996.1 K332-OK
24. 沖縄・台湾産業交流事業等報告書，3／南西地域産業活性化センター [編] 那覇：南西地域産業活性化センター，1997.3（南西地域の産業活性化に関する調査研究等補助事業，平成6年度～平成8年度） K333.8-NA
25. 日本移民の地理学的研究：沖縄・広島・山口／石川友紀著 宜野湾：榕樹書林，1997.2 K334.4-IS
26. 米軍に土地を奪われた沖縄人（うちなんちゅ）：ブラジルに渡った伊佐浜移民／石田甚太郎著 東京：新読書社，1997.4 K334.462-IS
27. 復帰20年・沖縄県市町村財政の分析／沖縄県町村議会議長会編 那覇：沖縄県町村議会議長会，1997.3 K349.3-OK
28. 雄飛：大阪の沖縄／大阪沖縄県人会連合会50周年記念誌編集委員会編 大阪：大阪沖縄県人会連合会，1997.6 K361.65-OS
29. 女性問題ガイドブック：21世紀の男女共同参画社会に向けて／沖縄県総務部知事公室女性政策室 [編] 那覇：沖縄県，1997.3 K367.2-OK
30. オキナワ女たちは今／ゆいまーるセミナー編 [東京]：ドメス出版，1997.1 K367.2-YU
31. 男女共同参画型社会の実現をめざす沖縄県行動計画：DEIGOプラン21／沖縄県総務部知事公室女性政策室編 那覇：沖縄県，1996.7 K367.8-OK
32. (財)沖縄協会二十五年のあゆみ／沖縄協会編 東京：沖縄協会，1997.3 K369.06-OK
33. 長寿のあしあと：沖縄県長寿の検証記録

- 1995/太平洋戦争・沖縄戦終結50周年記念事業記念誌検討委員会, 編集委員会編集 那覇: 沖縄県, 1996 K369.26-OK
34. 比謝川の絆/比謝川の絆編集実行委員会 [編] 沖縄: 沖縄県立農林学校第38期同期会, 1996.12 K376.4-OK
35. 環境問題と地域社会: 沖縄学探訪/沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾: 沖縄国際大学公開講座委員会, 那覇: ボーダーインク (発売), 1997.3 (沖縄国際大学公開講座, 2) K379.4-OK
36. アジアのダイナミズムと沖縄/沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾: 沖縄国際大学公開講座委員会, 那覇: ボーダーインク (発売), 1997.3 (沖縄国際大学公開講座, 5) K379.4-OK
37. 九州・沖縄の民俗, 沖縄県編/大島暁雄[ほか]編 復刻版 東京: 三一書房, 1996.11 (日本民俗調査報告書集成/大島暁雄, 松崎憲三, 宮本袈裟雄[編]) K380-NI
38. 民族芸術, vol.13:1997/民族芸術学会編 大阪: 民族芸術学会, 1997.3 K382-MI
39. 沖縄の習俗と信仰; 増補新訂/窪徳忠著 東京: 第一書房, 1997.5 (窪徳忠著作集, 4) K385.1-KU
40. 暮らしと祈り: 琉球弧・宮古諸島の祭祀世界/奥濱幸子著 那覇: ニライ社, 1997.4 K385.1-OK
41. 沖縄の聖地/湧上元雄, 大城秀子共著 中城村(沖縄県): むぎ社, 1997.5 K385.1-WA
42. 昔話の源流/稲田浩二著 東京: 三弥井書店, 1997.1 K388-IN
43. 沖縄(うちなあ)の昔面影(んかしうむかじ): 怪談・綺談の話グァー/金城和彦著 南風原町(沖縄県): 那覇出版社, 1997.3 K388-KI
44. 琉球列島<島うた>紀行, 第1集: 奄美諸島・沖縄北部・沖縄中部/仲宗根幸市編著 那覇: 琉球新報カルチャーセンター, 那覇: 琉球新報社(発売), 1997.4 K388-NA
45. まあじめんかしばなし/那覇市教育委員会文化課[編] 那覇: 那覇市教育委員会, 1992.3 K388-NA
46. なあふあぬんかしばなし/那覇市教育委員会文化課[編] 那覇: 那覇市教育委員会, 1991.2 K388-NA
47. しゅいぬんかしばなし/那覇市教育委員会文化課[編] 那覇: 那覇市教育委員会, 1989.12 K388-NA
48. うるくぬんかしばなし/那覇市教育委員会文化課[編] 那覇: 那覇市教育委員会, 1989.2 K388-NA
49. 琉球弧の民話/日本民話の会[編] 東京: 童心社, 1996.11 (民話の手帖) K388-NI
50. カミカゼ: 陸・海軍特別攻撃隊: 写真集, 上, 下/カミカゼ刊行編集委員会編 東京: ベストセラーズ, 1996-1997 K391.2-KA
51. GHQ指令「SCAPIN-A」総集成, 第1巻-第18巻/竹前栄治監修 東京: エムティ出版, 1997.1 K391.4-GH
52. GHQ日本占領史序説/竹前栄治解説; 竹前栄治, 今泉真理訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 1) K391.4-GHO
53. 占領管理の体制/高野和基解説・訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 2) K391.4-GHQ
54. 物資と労務の調達/安藤仁介, 笹本征男解説; 笹本征男訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 3) K391.4-GHQ
55. 人口/黒田俊夫解説; 黒田俊夫, 大林道子訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 4) K391.4-GHQ
56. BC級戦争犯罪裁判/小菅信子, 永井均解説・訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 5) K391.4-GHQ
57. 公職追放/増田弘解説; 増田弘, 山本礼子訳 東京: 日本図書センター, 1996.2 (GHQ日本占領史/竹前栄治, 中村隆英監修; 天川晃[ほか]編集委員, 6) K391.4-GHQ
58. 憲法制定/古関彰一解説; 岡部史信訳 東

- 京：日本図書センター，1996.2（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，7） K391.4-GHQ
59. 政府機関の再編／平野孝解説・訳 東京：日本図書センター，1996.2（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，8） K391.4-GHQ
60. 国会の民主的改革／前田英昭解説・訳 東京：日本図書センター，1996.2（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，9） K391.4-GHQ
61. 選挙制度の改革／小松浩解説・訳 東京：日本図書センター，1996.2（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，10） K391.4-GHQ
62. 政党の復活とその変遷／伊藤悟解説・訳 東京：日本図書センター，1996.2（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，11） K391.4-GHQ
63. 公務員制度の改革／岡田彰解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，12） K391.4-GHQ
64. 法制・司法制度の改革／納谷廣美解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，14） K391.4-GHQ
65. 外国人の取り扱い／松本邦彦解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，16） K391.4-GHQ
66. 演劇・映画／平野共余子訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，19） K391.4-GHQ
67. 教育／土持法一解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，20） K391.4-GHQ
68. 公衆衛生／杉山章子解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，22） K391.4-GHQ
69. 社会保障／金蘭九，南雲和夫訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，24） K391.4-GHQ
70. 賠償／西川博史解説・訳 東京：日本図書センター，1996.12（GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，25） K391.4-GHQ
71. 沖縄：日米最後の戦闘／米国陸軍省編；外間正四郎訳 東京：光人社，1997.3（光人社NF文庫） K393.2-AM

## 4類 自然科学

1. さんご礁砂礫地盤の強度評価に関する研究 [西原町(沖縄)]：新城俊也，1997.3（科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書，平成7年度） K455.9-SH
2. 黒船が持ち帰った植物たち／小山鐵夫編著 鎌倉：アボック社，1996.11 K472.1-KO
3. 人と動物たちのふれあい：NHKテレビ「シリーズ授業」より／戸川幸夫著；うちべけい画 東京：金の星社，1990.8 K481.7-TO
4. Pacific marine fishes, Book 1 2nd ed Hong Kong; Neptune City, N.J.: T.F. H. Publications, 1973 K487.5-WA
5. 大保ダム建設発生土の処分候補地に係る生物環境調査データ（陸域・海域）／沖縄総合事務局北部ダム事務所 [編] 浦添：沖縄建設弘済会，1997.4 K488.8-OK
6. 医者がすすめる専門病院：九州・沖縄県版／医療研究グループ編 名古屋：ライフ企画，1996.5 K498.16-IR
7. 沖縄長寿総合調査報告書 東京：長寿社会開発センター，1997.3 K498.38-CH
8. 沖縄の気候・風土と長寿に関する研究，平成8年度 [西原町]（沖縄県）：[崎原盛造]，1997.3 K498.38-OK

## 5類 工 学

1. エコダム宣言：生態系保全新時代／北部ダム事務所編 浦添：沖縄建設弘済会，1997.2 K519.81-EK
2. ゴーヤーブック：体にいい苦瓜料理／高安夏子編 那覇：楽園，1997.3 K596.1-GO



## 6類 産 業

1. 沖縄の開発：今・問われているもの／宮城辰男著 那覇：瑞慶覧長正, 1997.3 K601-MI
2. 地域創造の時代：山里将晃教授退官記念論文集／山里将晃先生退官記念論文集刊行会編 那覇：オークスビジネスサービス, 1997.5 K601.1-YA
3. 宮古郡農業協同組合史／宮古郡農業協同組合史編纂委員会編 平良：宮古郡農業協同組合, 1996.12 K611.6-MI
4. 沖縄県農業協同組合中央会30年史／創立30周年記念誌編集委員会編 那覇：沖縄県農業協同組合中央会, 1997.3 K611.6-OK
5. 沖縄の都市緑化植物図鑑／海洋博覧会記念公園管理財団編 本部町（沖縄県）：海洋博覧会記念公園管理財団, 浦添：沖縄出版（発売）, 1997.4 K629.7-KA
6. 沖縄の黒毛和種／玉城政信著 那覇：月刊沖縄社（発売）, 1996.9 K645.3-TA
7. 林政八書：意訳／中須賀常雄編 那覇：東洋企画（発売）, 1997.2 K651.1-NA
8. 県産材利用開発基礎調査報告書／沖縄開発庁沖縄総合事務局林務水産課編 [那覇]：沖縄開発庁沖縄総合事務局, 1996.3 K657-OK
9. 新世紀の地域流通：新城俊雄教授還暦記念／地域流通研究会編 那覇：東洋企画, 1997.3 K675-SH
10. 財団法人三井文庫所蔵長崎貿易関係史料目録／賀川隆行 [ほか] 編 東京：三井文庫, 1997.3 K678.031-KA
11. 沖縄都市モノレールと地域活性化を考える：21世紀の沖縄の総合交通経済社会を目指して報告書 [宜野湾]：[沖縄国際大学産業総合研究所], [1996]（沖国大産業総合研究所フォーラム, 第5回） K686.9-OK
- 明美ぶん・え 東京：絵本『つるちゃん』を出版する会, 東京：高文研（発売）, 1997.4 K726.5-KI
4. ちむどんどん：沖縄戦一母から命へー／金城明美文・絵 北中城村（沖縄県）：金城明美, 南風原町（沖縄県）：那覇出版社（発売）, 1997.5 K726.5-KI
5. 楽園の原点おきなわ／三好和義著 東京：新潮社, 1997.4（フォトミュゼ） K748-MI
6. 芸大教員14人展：工芸専攻, 第3回／企画展委員会編 那覇：沖縄県立芸術大学, 1994.3 K750-OK
7. 日本伝統漆芸展, 第14回／日本工芸会, 西武百貨店編 [東京]：西武百貨店, 1997 K752-NI
8. 唐物漆器：中国・朝鮮・琉球／徳川美術館編 名古屋：徳川美術館, 1997.4（徳川美術館名品集, 2） K752-TO
9. 読谷山花織展：織りの技と美：企画展／読谷村立美術館編 読谷村（沖縄県）：読谷村立美術館, 1996.10 K753.3-YO
10. 八重芸：琉球大学八重山芸能研究会創立三十周年記念誌／山里純一編 [西原町（沖縄県）]：琉球大学八重山芸能研究会, 1997.3 K760.4-YA
11. すべての武器を楽器に／喜納昌吉著 東京：冒険社, 1997.5 K762-KI
12. [野村流伝統音楽協会]創立十周年記念誌／野村流伝統音楽協会 [編] 那覇：野村流伝統音楽協会, 1996.4 K768-NO
13. [野村流古典音楽保存会] 創立40周年記念誌／野村流古典音楽保存会 [編] [那覇]：野村流古典音楽保存会, 1995.10 K768-NO
14. 琉球古典音楽絃声の葉／屋比久修身著 那覇：屋比久修身, 1993.4 K768-YA
15. 沖縄音楽と三線の心：我が三線修業の記／玉城秀治著 那覇：ふくまさ, 1997.4 K768.11-TA

## 7類 芸 術

1. 尚家継承文化遺産：かがやく琉球王家の至宝／那覇市文化局歴史資料室編 [那覇]：那覇市, 1997.2 K709-SH
2. ホテル・ハイビスカス：沖縄しまーぐわーコミック／仲宗根みいこ作・画 那覇：ポーターインク, 1997.4 K726.1-NA
3. つるちゃん：おきなわ・メッセージ／金城
16. 沖縄Divingポイントマップ集, 1：沖縄本島編／沖縄マリン出版編 南風原町（沖縄県）：沖縄マリン出版, 1997.5 K785.3-OK
17. 雲がおしえる釣れる日釣れない日：グルクン・アカジンの釣り方／久場兼昌著 2版 那覇：沖縄タイムス社, 1997.6 K787.1-KU

## 8類 語 学

1. 外国資料を中心とする沖縄語の音声・音韻に関する歴史的研究／多和田眞一郎著 東京：武蔵野書院, 1997.1 K810-TA
2. 日本列島の言語：言語学大辞典セレクション／亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編著 東京：三省堂, 1997.1 K830-GE
3. 宮古方言散歩路：平良的表現／奥平博尚著 平良：[奥平博尚], 1996.3 K880-OK

## 9類 文 学

1. 沖縄文学フォーラム報告書：沖縄・土着から普遍へ：多文化主義時代の表現の可能性／沖縄文学フォーラム実行委員会[編] [西原町(沖縄県)]: 沖縄文学フォーラム実行委員会, 1997.3 K900-OK
2. 琉歌百選集：琉歌でつづる鳴響む浦添, 2 / 浦添市教育委員会文化課 [編] 浦添：浦添市教育委員会, 1997.3 K913-UR
3. 吠えよ獅子(シーサー)／儀間海邦著 東京：新幹社, 1997.1 K913.6-GI
4. 沖縄の骨／岡部伊都子著 東京：岩波書店, 1997.4 K914.6-OK
5. ルンペン作家、奮戦／富村順一著 東京：れんが書房新社, 1997.1 K914.6-TO
6. 花ゆうな：合同歌集, 第1集-第3集 [那覇]: 花ゆうな短歌会, 1995.3-1997.3 K916-HA
7. 榎本冬一郎第四句集『尻無河畔』鑑賞／楠本義雄著 和歌山：群蜂俳句会, 1997.2 (群蜂叢書, 第44巻) K916-KU
8. ゆずりは：俳句と随筆／徳村光子著 那覇：徳村光子, 1997.6 K916-TO
9. 俳句の種：生徒と教師の合同句集／読谷高等学校国語科編 読谷村(沖縄県)：読谷高等学校, 1997.3 K916-YO
10. 天蛇(ティンバウ)：宮古島：野ざらし延男第四句集／野ざらし延男著 那覇：脈発行所, 1994.11 (沖縄現代俳句文庫, 7) K916.08-OK
11. 握りしめた手の中の私／山入端利子著 東京：金花舎, 1997.4 K917-YA
12. 世替りや世替りや：大城立裕戯曲集／大城立裕著 東京：三一書房, 1997.3 K920-OS

13. ちばりよ!：小説／森薫著 東京：あゆみ出版, 1996.8 K930-MO
14. むくどりの巣ごもり／池沢夏樹著 東京：朝日新聞社, 1997.5 K940-IK
15. 沖縄・釣りの民俗誌／いれいたかし著 那覇：沖縄タイムス社, 1997.6 K940-IR
16. 南の島の便り(ばいぬすまぬいやり)：やぶれナイチャーの西表島生活誌／岩崎魚介著 浦添：沖縄出版, 1997.6 K940-IW
17. 鬼検事の休息／法務省法務総合研究所, 神垣清水編 東京：信山社, 1996.12 K940-KA
18. 思念の砂丘：中里友豪エッセイ集／中里友豪著 那覇：沖縄タイムス社, 1997.3 K940-NA
19. ひんぷん／沖縄エッセイストクラブ [編] [那覇]: 沖縄エッセイストクラブ, 1997.4 (沖縄エッセイストクラブ作品集, 14) K950-OK
20. 悲しみをのり越えて／八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和記念誌編集委員会編 那覇：沖縄県, 1997.3 K950-OK
21. さまざまな戦後, 第2集／伊藤ルイ [ほか] 著 東京：日本経済評論社, 1995.7 K950-SA
22. 霜多正次全集, 第1巻／霜多正次著 東京：霜多正次全集刊行委員会, 東京：沖積舎(発売), 1997.6 K980-SH

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

## 本学教官著作寄贈図書案内

1997年5月～1997年7月

- |  |           |
|--|-----------|
| 高良 倉吉 (法文学部)                                   | K334.4-IS |
| 「沖縄」批判序説／高良倉吉著 那覇：ひるぎ社, 1997.7 (おきなわ文庫, 80)    |           |
| K200.4-TA                                      |           |
| 石川 友紀 (法文学部)                                   |           |
| 日本移民の地理学的研究：沖縄・広島・山口／石川友紀著 宜野湾：榕樹書林, 1997.2    |           |
| 佐藤 良也 (医学部)                                    | WC865     |
| 日本における糞線虫と糞線虫症／城間祥行, 佐藤良也編著 福岡：九州大学出版会, 1997.2 |           |
- 注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

## 「文献検索ワークショップ」開催される

附属図書館では、平成9年9月8・9日「文献検索ワークショップ」を開催しました。この催しは、この6月から情報サービス課電子情報係が図書館内において定期的に主催している「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」の特別版にあたるもので、今回は現在図書館でサービスしているCD-ROMのうちの5タイトルについて、それらを直接作成している機関の専任インストラクターを講師に迎えて開催され、両日あわせて68人の参加がありました。

初日の8日は図書館1階多目的ホールにて、館内職員を対象に、情報検索サービスなど、情報サービスを提供する側として必要な知識の習得に主眼を置いた、延べ3時間半の集中した講義・討議が行われました。

翌9日は学生・教官等図書館利用者向けに、午前は図書館本館、午後は医学部分館でそれぞれ2時間ずつ講義が行われ、検索方法の他に、学術情報におけるコミュニケーションの在り方にまで踏み込んだ熱心な討議も行われました。  
(電子情報係)



## 図書館事情

### 【会議】

◎第215回図書館運営委員会

日時：平成9年7月2日(水)

10:00～12:00

場所：附属図書館会議室

### 【協議事項】

- 1) 平成9年度自己点検評価報告の実施について
- 2) 開館時間の延長について

- 3) 調査研究室の設置について
- 4) ブランケットオーダーについて
- 5) その他
  - ①沖縄関係資料について

### 【報告事項】

- 1) 平成9年度九州地区国立大学図書館協議会総会について
- 2) 平成9年度九州地区大学図書館協議会総会について



- 3) 平成9年度国立大学附属図書館事務(部)課長会議について
- 4) 第44回(平成9年度)国立大学図書館協議会総会について
- 5) 附属図書館自己評価委員会委員の委嘱について
- 6) 琉球大学附属図書館資料選定委員会委員の委嘱について
- 7) 平成9年度学生用図書を選書依頼について
- 8) CD-ROM資料購入費に係る予算要求について
- 9) 科学研究費の採択について
- 10) その他
  - ①平成10年度の概算要求について
  - ②平成9年度大型コレクション収集計画について
  - ③平成9年度自然科学系図書資料収集計画について
  - ④平成9年度沖縄関係文献資料購入計画について
  - ⑤「読書案内」の結果について
  - ⑥図書館ボランティアの再募集について
  - ⑦「琉球大学附属図書館学外者利用細則の運用について」

## 医 学 部 分 館 だ よ り

### ◎第45回九州地区医学図書館協議会総会

開催月日：平成9年8月29日(金)

第45回九州地区医学図書館協議会総会は当番館の佐賀医科大学を始め、34名の参加のもとで開催され、当館医学部分館から福永分館長、専門員が出席しました。

午前中の司書会議のあと、午後1時より総会が開かれ、小橋当番館長の司会で活発な協議議題の討議が行われました。総会終了後、記念撮影が行われ、その後会場のはがくれ荘で懇親会が開かれ、なごやかな雰囲気の中に終了しました。

尚、九州地区の「医学図書館員セミナー」は来年度の平成10年度は宮崎医科大学に、平成12年度は琉球大学が当番館になりました。

〈総会〉

#### I. 協議議題

1. 第47回(平成11年度)以降の協議会総会の当番館について
2. 九州地区における医学図書館職員の研

修について

3. 平成11年 第70回日本医学図書館協議会総会実行委員会について  
(第70回日本医学図書館協議会総会の実行委員会の発足について)
4. 本協議会と日本医学図書館協会との関係について
5. 日本医学図書館協会の次期理事推薦について
6. 病院図書室などとの連携について
7. 院生の留学生のオリエンテーションについて
8. その他  
九州地区医学図書館協議会のホームページ掲載について

#### II. 確認事項

1. 九州地区医学図書館協議会総会次期当番館について

#### III. 承合事項

1. 図書館資料の除籍及び廃棄について
2. 無人開館について

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第30巻 第4号(通巻第116号)

平成9年10月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)8168

編集 びぶりお編集委員会